

看護師になるという大きな夢に向かってチャレンジしてみませんか！

21世紀の日本は、超高齢化、高度医療化時代と言われ、看護職者はますます注目され、需要も多くなっています。

看護は、人の命に関わる仕事ですから、厳しく責任も重大なのは勿論ですが、患者さんと心が通じ合い、自分を必要とされた時、それはとてもやりがいがあり、喜びを実感できるものでもあります。

学校での授業は、より多くの知識を身につけられるよう、広範囲にわたっており、臨地実習においては緊張の連続でもあります。それだけに、同じ目標を持った多くの仲間が互いに励まし合い、そして何でも気軽に相談できる先生の指導のもと、楽しく充実した毎日を過ごすことができます。

一緒に頑張ってみませんか！

広島市立看護専門学校教育理念

- 豊かな人間性や倫理的配慮をもって、地域社会に貢献できる看護師を養成する。
- 専門職者として、自己教育力をもって自律できる看護師を養成する。
- 時代のニーズに対応し得る看護の専門的知識・技術・臨床判断能力を備えた看護の実践者を育成する。

本校の主な特徴

- 看護技術力の強化
- 実習施設の充実
- 国家試験高合格率
- 都心への至近・好アクセス

学校概要

開校	昭和54(1979)年4月
学科・定員	第一看護学科(全日制) 学年定員 80名 総定員 240名 第二看護学科(昼間定時制) 学年定員 40名 総定員 120名
修業年限	3年
教職員	専任 30名 兼任 90名
施設	占有総面積 6,804.68㎡

施設紹介



G・Kuls land
ガブリエーレ クールシュトルンク
広島看護専門学校の6階ロビーに飾られている“鳩の絵”は、学校の理念やシンボルマークのイメージなどが絵にふさわしいとして、スイスの画家ガブリエーレ クールシュトルンクさんから寄贈されたものです。



Let's Challenge!

私たちはみんな、人を支える心のアスリート。

第一看護学科

第一看護学科3年生 萩野 里子



3年次の臨地実習では、より専門的で実践的な看護を学んでいます。統合看護実習では、複数の患者さんを受け持ち、患者さんの状態から優先順位を考えた介入が必要になります。手術を受け退院後は一人暮らしになる高齢の患者さんを担当し、筋力の低下を不安に思っていることがわかりました。そこで患者さんに、退院後どんな生活がしたいか聞き、それを叶えるために必要なことを話したことで、患者さん自身の目標に向かい歩行練習に取り組まれるようになりました。患者さんにより、望む生活は異なります。患者さんの思いを聞くことが個別的な看護に繋がることを学びました。実習以外にも、国家試験の勉強や、就職活動などと並行した学校生活になります。忙しい日々ですが、学びが凝縮され、充実した学校生活を送ることができます。本校では、経験豊かな先生方からの親身なサポートがあり、経歴、年代が様々な仲間と、共に励まし合いながら同じ目標へ向かって努力を続けられます。

第一看護学科2年生 田中 亜実



2年次では、1年次で学んだ基礎的な知識や技術を活かして看護を展開していきます。そして、実際に患者さんを受け持たせていただく成人・老年看護学実習、地域在宅看護論実習が始まります。アセスメントや援助を行う上で、疾患やその日の状態だけではなく、どのような思いをもっておられるのかを普段のコミュニケーションから理解し、個性のある看護を提供できるように努めています。3年次に向けて小児看護学・母性看護学・精神看護学などの専門的な講義も始まり、実習との両立は大変ですが、先生方や仲間と支えられて乗り越えることができます。また、定期的に進路ガイダンスがあります。卒業生の方から実際の就職活動の様子や、国家試験の取り組みなど、さまざまなお話を聞くことができ、とても有意義な時間でした。これからも、患者さん一人一人に寄り添った看護を提供できるように、努力していきたいと思います。

第一看護学科1年生 植原 悠斗



1年生は、看護の知識や技術を基礎から学習します。知識の面では「看護とは何か」ということから、患者さんとのコミュニケーションのとり方、人体の仕組みについて学ぶ解剖生理学、治療に関する診断治療学など多くのことを学習します。技術面では、手順を覚えるだけではなく、なぜこの援助を行うかという目的やそのような注意をしなければならぬといったものの根拠に基づいた看護技術を習得します。覚える量は非常に多いですが、先生方は臨床での経験を基に分かりやすく丁寧に教えてくださるので、安心して学習することができます。また、実習では実際に患者さんを受け持ち、患者さんの個性を考えた環境整備を行ったり、カルテや患者さんとのコミュニケーションから情報を収集して、安全・安楽に援助ができるよう看護計画を立て、援助を実施します。今後も患者さんを笑顔にできる看護師を目指して頑張っています。

卒業生

広島市立広島市民病院 石飛 花夏



私は、第一看護学科を卒業後、広島市民病院に就職し4年目となりました。学生時代を振り返ると授業に実習、課題と様々なことに追われる日々を過ごしましたが、先生方や指導者、仲間の支えがあり、看護師となり働くことができています。大変なことも多いですがとてもやりがいがあると感じています。看護を行う中で患者さんとの関わりやの難しさや、自分の知識不足を感じることもありますが、自分にできることが増えたときや、患者さんからありがとうという言葉や、患者さんの笑顔がみられたときには看護師をしていてよかったと感じます。現在は学生指導を行うようになりました。指導する立場となり、自分の至らなさを実感することもあります。自分なりに経験したことを学生へ伝えることができるよう頑張っています。患者さんにとって最善の看護を提供するために初心を忘れず、自己研鑽し看護師として成長できるよう日々努力していきたいと思っています。

(25回生:令和2年3月 第一看護学科卒業)

第二看護学科

第二看護学科3年生 田渕 洸佑



3年次では、専門的で実践的な実習を行います。今まで学んできた看護技術や治療学、薬理学などの知識を集約し、患者さんの健康問題に対して必要とされる看護とは何かを考えていきます。私は、疾患を抱え、死への不安や苦痛のある患者さんと向き合い、看護職者としての責任を痛感しました。その時々の実習指導者や先生方の丁寧なサポートを受け、患者さんへ個性のある援助を行うことができました。患者さんの健康問題に対し、少しでも良い方向に向かえるよう援助ができた際には、看護のもつ力や喜びを実感しました。また、実習と並行して、就職活動や国家試験の勉強、ケーススタディなど多忙な日々が続きますが、同じ目標を持つクラスメイトと支え合い、家族の協力もあって乗り越えることができています。これからは学校で学んだことを活かして看護に真摯に向き合い、日々成長できるよう努力していきたいと思っています。

第二看護学科2年生 出岡 優子



私は、准看護師として産科で勤務していました。その中で、様々な不安や悩みを抱えている妊婦・褥婦さんに寄り添った看護を行っている先輩方に感銘を受け、私も先輩方のような看護が出来るようになりたいと思いました。また、自分の知識やアセスメント不足を感じ、もっと学びを深めたいと思いました。子育てをしながらの進学には不安や迷いもありましたが、職場の方々の後押しと家族の協力を得て本校に進学することを決めました。臨地実習では戸惑うこともありましたが、今まで点と点だった知識が繋がり、個性を考慮したアセスメントが出来るようになり、看護の喜びを感じています。また、不安や悩みを感じた時に親身になって相談に乗ってくださる先生方や支え合える仲間に出会え、本校に入学して本当に良かったと思います。そして、今後も更に学びを深め、患者さんのこれからの生活に寄り添える看護師になりたいと思います。

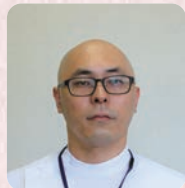
第二看護学科1年生 佃 美希



私は子育てをしながら一生やりがいをもって働ける仕事がしたいと思い、看護の道に進みました。学業・仕事と育児の両立は簡単ではないですが、家族や気軽に相談できる頼もしい友人たちや、信頼のおける先生方に助けられ、学校生活を送っています。クラスメイトは社会人経験のある人、育児中の人と様々です。年齢や経験の違いはありますが、みんな仲良く切磋琢磨しながら勉学に励むことができます。先生方は実際の現場のエピソードを交えながら講義を行ってくださるので、実際の臨床での様子を想像しながら学ぶことができます。演習ではシミュレーターを使って実際の心音や呼吸音の異常音を聴取するなど、フィジカルアセスメントの技術のトレーニングを行うことができます。今後実習などで経験を積み、これまで学んだ知識や技術に加え、臨床判断能力を身につけ、学びを深めていきたいと思っています。患者さん一人一人に誠実に向き合える看護師を目指します。

(学年は令和5年度現在)

広島市立舟入市民病院 田中 博之



広島市立看護専門学校を卒業して17年たちました。卒業後は舟入市民病院に就職し、現在も同病院にて勤務を続けています。就職して経験を積むうちに創傷ケアへの興味が強くなり、病院や先輩の勧めもあって認定看護師の道を目指しました。そして皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得し、褥瘡を中心とした創傷のある患者さんに対し院内を横断しながら日々看護を行っています。現在、日本は高度医療化や少子高齢化によって多様な医療・看護が求められています。そのため看護師も認定看護師や専門看護師、一部医療行為が可能ないわゆる特定看護師など様々な分野に広がり多様性が増しています。そしてそれは看護師としての可能性が広がっていることを表しています。これから看護師を目指して看護学校に入学されてこられる方々には、その可能性に目を向け未来に向かって進んでいてもらいたいと思います。そして看護師としてともに働くことを待っています。

(25回生:平成18年3月 第二看護学科卒業)